

# 7 公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団

令和7年7月1日現在

設立年月日	昭和48年4月20日	代表者氏名	理事長 犬塚 力	
所在地	名古屋市中区金山一丁目4番10号		電話番号	052-322-2774
ホームページアドレス	<a href="https://www.nagoya-phil.or.jp/">https://www.nagoya-phil.or.jp/</a>			
資本金・基本金	10,000千円	市出資・出捐金	10,000千円	( 100.0% )
所管部局	観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課		電話番号	052-972-3172
設立目的	交響管弦楽による音楽芸術の普及向上を図り、文化の発展に寄与することを目的とする。			

主な事業	事業名	令和6年度 事業費	事業の概要		
	定期演奏会、巡回演奏会、移動音楽教室	690,164千円	音楽文化の発展・普及のための演奏会【定期演奏会】、地方自治体等の依頼による演奏会【巡回演奏会】、小・中学生や高校生を対象とする音楽鑑賞教室【移動音楽教室】を開催		
	特別演奏会、依頼演奏会	228,643千円	それぞれの趣向を凝らす特別企画の演奏会【特別演奏会】、企業・団体等からの依頼による演奏会【依頼演奏会】を開催		
	室内楽	8,910千円	企業・団体等からの依頼によるアンサンブル（小編成）の演奏会を開催		
役職員数	常勤				
	役員数	2人	(うち市派遣)	0人	(うち市OB) 1人 19人
	職員数	68人	(うち市派遣)	1人	(うち市OB) 1人 15人
常勤役員平均報酬 (市派遣職員を除く)	6,000千円	正規職員平均給与 (市派遣職員、臨時職員、嘱託職員等除く)	6,360千円	正規職員平均年齢 (市派遣職員除く)	42.2歳
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
市からの財政支出	委託料	120千円	1,531千円	3,932千円	
	内 隨意契約金額	(120千円)	(1,531千円)	(3,932千円)	
	補助金	274,198千円	271,471千円	281,471千円	
	指定管理料	0千円	0千円	0千円	
	貸付金 (年度末残高)	0億円	0億円	0億円	
損益計算書 (正味財産増減計算書)	経常収益	982,901千円	925,567千円	1,011,115千円	
	経常費用	1,020,621千円	1,007,945千円	1,040,872千円	
	経常利益（損失）	▲ 37,720千円	▲ 82,379千円	▲ 29,757千円	
	当期利益（損失）	53,142千円	▲ 82,379千円	▲ 30,200千円	
貸借対照表	総資産	798,013千円	684,235千円	674,350千円	
	内 流動資産	(401,935千円)	(321,862千円)	(320,290千円)	
	内 固定資産等	(396,079千円)	(362,373千円)	(354,060千円)	
	総負債	262,314千円	230,860千円	251,104千円	
	内 流動負債	(166,472千円)	(169,927千円)	(197,586千円)	
	内 固定負債等	(95,842千円)	(60,933千円)	(53,518千円)	
	純資産（正味財産）	535,700千円	453,375千円	423,246千円	

## 経営に関する指標（共通指標）

7 公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団

○法人の自立性		令和5年度	令和6年度	対前年度増減
市からの収入割合	$\left( \frac{\text{市からの委託料・補助金・指定管理料}}{\text{経常収益}} \right)$	29.5%	28.2%	▲1.3%
市との随意契約比率	$\left( \frac{\text{市との随意契約金額}}{\text{市からの委託料総額}} \right)$	100.0%	100.0%	0.0%
市職員の役員就任割合	$\left( \frac{\text{市職員の役員数}}{\text{役員総数}} \right)$	令和6年7月1日現在 14.3%	令和7年7月1日現在 14.3%	対前年増減 0.0%
固有職員比率	$\left( \frac{\text{常勤固定職員数}}{\text{常勤職員数}} \right)$	95.6%	95.6%	0.0%
○組織運営の効率性		令和5年度	令和6年度	対前年度増減
管理費比率	$\left( \frac{\text{管理費}}{\text{経常費用}} \right)$	3.2%	3.3%	0.1%
○財務の健全性		令和5年度	令和6年度	対前年度増減
自己資本比率	$\left( \frac{\text{純資産(正味財産)}}{\text{総資産}} \right)$	66.3%	62.8%	▲3.5%
流動比率	$\left( \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \right)$	189.4%	162.1%	▲27.3%
固定長期適合率	$\left( \frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}} \right)$	70.5%	74.3%	3.8%
借入金依存度	$\left( \frac{\text{借入金+社債}}{\text{総資産}} \right)$	0.0%	0.0%	0.0%
剰余金(欠損金)	$\left( \frac{\text{純資産(正味財産)} - \text{基本金・資本金}}{} \right)$	443,375千円	413,246千円	▲ 30,129千円

## ○ 経営戦略計画（R5～R7）の概要

### 経営戦略方針

- ① 演奏力の向上と段階的な編成の充実に取り組むことにより、優れた音楽性と演奏技術を持った、「市民が誇りに思えるオーケストラ」を目指す。そしてオンリーワンのオーケストラを目指すことで、「世界的に評価されるオーケストラ」となるための礎を築く。  
 ② 交響管弦楽の普及のため、「こども名曲コンサート」や「福祉コンサート」といった誰もが楽しめる演奏会や、文化芸術を活かしたまちづくりにも積極的に取り組む。また、より多くの徴収に機会を提供するために、一定の公演数を維持し、演奏会の入場者数増加を目指すことで、「市民に親しまれるオーケストラ」、「市民に愛されるオーケストラ」を目指します。  
 ③ ①・②を達成するために、収益の柱のひとつである民間からの支援を維持しながら、財務状況を改善し、持続可能で安定的な経営基盤を築く。

主な経営戦略目標【戦略基軸】	主な成果指標(単位)	6 目標値	6 実績値
計画的な演奏体制の確保(人材力・現場力の強化) 財務状況とのバランスを確保しながら、3管14型編成(定員82人)を目指し、計画的な楽員のオーディションを実施する。	年度末楽員数 (人)	76	68
公演数の維持(公共サービスの充実／効率性の発揮と成果) オーケストラ演奏事業は、新型コロナウイルスによって落ち込んだ公演数を回復させ、年間110回程度の演奏会実施を目指す。	演奏回数 (回)	107	108
正味財産の確保と収支相償(財務内容の改善・向上／効率性の発揮と成果)新型コロナウイルス感染症対策の収束を見据え、音の普及向上を目指した演奏活動をコロナ禍以前の水準まで復活させるとともに、賛助会員収益の確保など収支改善に積極的に取り組むことで経営基盤を安定させ、正味財産から一部資産を差し引いた財産の安定的な確保を目指します。一方、公共法人に求められている、各事業年度において収支が均衡する「収支相償」を満たす経営に努めます。	正味財産 (千円)	480,346	423,246
	賛助会員収益 (千円)	133,100	130,970